

まちづくりを考える

きょうどう

「協働」ってなに？

全国の各まちの全体計画（総合振興計画など）の中で「協働」という言葉を使っていないまちはほとんどないのではないのでしょうか。この「協働」はまちづくり、地域づくりにおいて、とても重要な言葉であり、概念です。「協働」とは何か、考えてみましょう。

1 「協働」と「共同」の違い

「協働」は、よく「共同」と間違えられることもあります。この2つの言葉の意味を理解しましょう！

「共同」 「共同作業など一つの目的のために複数の人が一緒に物事を行う」こと

「協働」 「複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動する」こと

つまり、「協働」ってどういうこと？

⇒ 同じ事を一緒にする「一緒に汗水を流す」ということではなく、
「それぞれの主体がそれぞれの立場で活動しながら、目標に向かい力を合わせる」ということになります。



2 「まちづくりの協働」とは

まちづくりの協働における主体は、「住んでいる人（事業者などを含む）」です。

つまり、そこに住んでいる住民の活動がそのまちをつくっていくということになります。

まちづくりは、舞台によく例えられることもあります。「主役」は、先ほどのとおり「住民」です。そして、それを支える「舞台裏」が「行政」と言われています。「舞台」と「住民の主体的な活動を支援していく行政」のイメージが重なるようです。

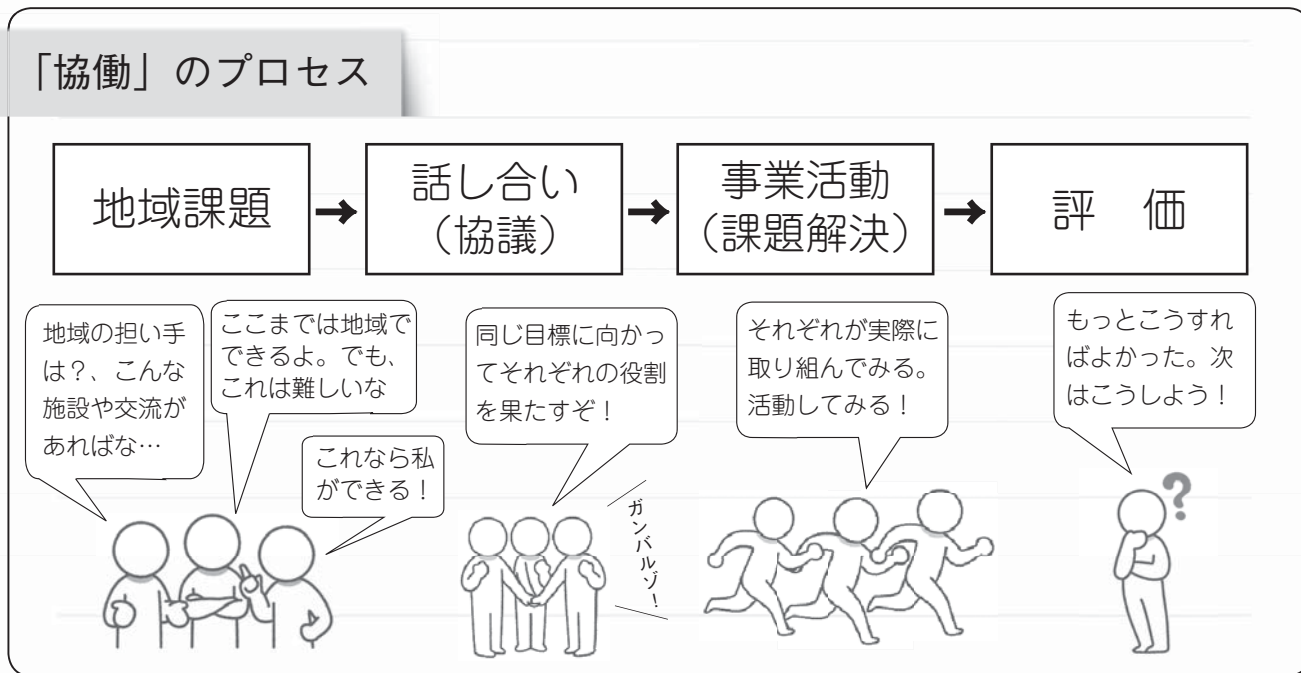


3 協働のプロセス

ここで、もう少し掘り下げてみましょう！

「協働」の中で、もう一つ忘れてはならないこと、それは「何のために協働するか」ということです。行政職員の中でさえ「行政が目的を示すもの」と勘違いされている方もいるかもしれません。実は「協働」の本質とは、「地域課題の解決」なのです。

「協働」のプロセスは次のとおりになります。



何をやるかではなく、どのように進めるか、何をしなければならないかを知ることから協働は始まります。「地域課題」から始まるこの一連のプロセス自体が「協働」であり、実は「協働」することが目的や結果ではありません。「協働」とは“手段”ということになります。逆にいうと、「地域の課題が分からなければ、協働は一步も進まない」ことになります。

- 地域課題に対して、住民が地域でできることをする。やってみる。力をつける。
- 課題解決に対して、行政が地域でできないことをする。助ける。支援する。

4 まとめ

「協働」は、「地域だけでは解決できない課題がある」、そして、同じように「地域課題の解決に向け、行政だけで解決できない課題がある」ということが前提になっています。

また、まちづくりの主役である住民同士の地域活動が地域課題の発見になります。その地域課題の解決に向けて、住民の方々と行政がお互いの不足を補い合い、ともに協力して課題解決に向けた取り組みをしていくことが、本当の意味で「協働のまちづくり」ということになります。

まずは、地域の活動に参加することが「協働」の始まりではないでしょうか。

この記事に関する問合せ先 企画振興課企画係 ☎ IP 53・2325